

実施要領 様式11(第13条関係)  
【認知症対応型共同生活介護用】

## 評価結果公表票

作成日 平成21年6月5日

### 【評価実施概要】

事業所番号	0270301583
法人名	有限会社 オーランド
事業所名	グループホーム オーランド
所在地	青森県八戸市大字白銀町字佐部長根24-317 (電話)0178-35-2500
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年1月22日

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

#### (1)組織概要

開設年月日	平成15年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 7人, 非常勤 3人, 常勤換算	10人

#### (2)建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	1 階部分

#### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 12,000 円他
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり		円

#### (4)利用者の概要(平成20年11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.9 歳	最低	74 歳	最高	97 歳

#### (5)協力医療機関

協力医療機関名	きむらクリニック 嶋田医院 こんどうファミリー歯科
---------	---------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは広大な敷地の中にあり「光・風・緑をいっぱいを感じる楽しい生活」をキャッチフレーズにしたホームである。  
また、利用者優先・家族優先の考え方をモットーに運営がされており、開設当初からの理念「個性の尊重」「自己決定の尊重」「残存・潜在能力の活用」のほかに、毎年独自理念を職員と共に作成し、日々のケアに活かしている。  
管理者や職員間での報告・連絡・相談・確認等の情報の共有が徹底しており、利用者一人ひとりに合ったケアの実現に取り組んでいる。  
常勤の看護師がおり、利用者はいつでも相談できる体制が整っているほか、体調に変化がある場合は、協力医等の指示により対応している。利用者の受診状況等は随時家族へ連絡し、情報の共有が図られている。  
利用者の重度化や終末期の対応について、事業所としての対応を明確にしており、早い段階から家族や医師を交えた話し合いを行っており、意思統一を図っている。  
緊急時、災害時には、地域住民や関係機関のほか、企業職員の協力も得られる体制が整っている。

### 【特に改善が求められる点】

職員が平均的・段階的に研修を受けられるよう年間研修計画を作成することに期待したい。  
やむを得ず拘束を行う場合に備え、理由や方法、期間、経過観察等について記録を残す体制を整備し、家族から同意を得る体制を整えることに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果を、スタッフ会議等で話し合い、全職員の意見を基に、より良いケアサービスの実現に向けて取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者や職員は、自己評価の意義を良く理解しており、自己評価を作成する際は、スタッフ会議等で全職員が意見を出し合って作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>メンバーに会議の意義や役割を説明しており、地域の中にホームの理解や連携が徐々に深まっている。</p> <p>また、会議は2ヶ月毎に開催し、ホームの活動内容のほか、自己評価や外部評価結果を報告しており、活発な意見交換が行われている。</p> <p>出された意見や要望は、日々のケアや活動等に反映させるよう心掛けている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>毎月発行するホーム新聞に暮らしぶり等を掲載し報告している。また、受診状態等は、必要に応じて電話等で報告しているほか、金銭管理については出納帳へ記載し、領収書を添え面会時に報告し、確認を得ている。</p> <p>重要事項説明書にも苦情に関する事項を明示していると共に、ホーム内にも掲示しているほか、意見箱を備え付け、意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見等は、改善を行うように心掛けている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の夏祭り、公民館まつり等に参加し、利用者の手作り作品等の販売を行うなど、地域住民との交流を深めている。</p> <p>また、実習生やボランティアの受入れを行っているほか、ホームの見学や相談などを随時行っており、認知症の予防・普及活動に取り組んでいる。</p> <p>外部の方を受け入れる際は、利用者のプライバシー保護にも十分配慮している。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>地域密着型サービスの役割を理解し、地域との関わりを大切に考えて独自の理念を作成しており、全職員への周知を行うと共に、理念の実現に努めている。</p> <p>契約時は、ホームの理念や方針を重要事項説明書を基に十分に説明を行い、家族の意見や疑問点を引き出すよう心掛けている。また、契約改訂時や退居時にも十分に説明を行い、同意を得ているほか、退居の際は転居先の情報提供を行うなどの支援を行っている。</p> <p>市のグループホーム協会に加入し、総会や懇談会、勉強会を通じて交流を図っている。また、他グループホームの見学等を行うなど、職員の育成に繋げる取り組みを行っている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>見学・相談の段階から、安心してサービスが開始できるよう、利用者や家族の思いを尊重している。また、利用者の生活歴や希望、好みなどの情報収集を行い、生活が急に変わらないよう配慮している。</p> <p>職員は、利用者のペースや喜怒哀楽を受け止め、野菜作りや食事の準備、後片付けなど、利用者の興味や特技を活かし共同しながら生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画を作成する際は、利用者の思いを汲み取り、家族からの意向を収集してアセスメントを行っている。また、ケア会議において全職員の気づきや意見も取り入れるほか、必要に応じて家族等の意向を反映させ、利用者本位の個別具体的なものとなっている。</p> <p>利用者や家族の希望するかかりつけ医での受診を支援している。また、看護師が常勤をしており、いつでも相談できる体制が整っているほか、体調に変化がある場合は、協力医等の指示により対応している。利用者の受診状況等は随時家族へ連絡し、情報の共有が図られている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者へは、常に穏やかにゆったりとした接し方を心掛けているほか、常識的で適切な呼びかけを行っている。また、職員は個人情報保護法を理解し、個人情報の記録等はイニシャルで行うなどの配慮を行っているほか、個人ファイル等は利用者や来訪者の目に付かないよう事務室に保管している。</p> <p>ホーム周辺を散歩したり、買物や外食、ドライブに出掛けるなど、日常的に外出の機会を設けており、利用者の身体状況や希望に合わせた外出支援計画を立て実施している。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者・職員は地域密着型サービスの役割を理解し、地域とのかかわりを大切に考えて、①人生の継続性の尊重、②自己決定の尊重、③残存・潜在能力の活用、④地域交流の継続という独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時に理念を唱和したり、ホーム内に掲示することで、職員は常に理念を確認している。また、日々のケアや介護計画においても、理念に基づいており、利用者本位を大切にしながら取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の夏祭り、公民館まつり等に参加し、利用者の手作り作品等の販売を行うなど、地域住民との交流を深めている。また、実習生やボランティアの受入れを行っているほか、ホームの見学や相談などを随時行っており、認知症の予防・普及活動に取り組んでいる。外部の方を受け入れる際は、利用者のプライバシー保護にも十分配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価の意義を理解しており、評価を日々のケアの気づきや確認・検討を行う良い機会と捉え、スタッフ会議において全職員が意見を出し合い改善等に取り組んでいる。自己評価を作成する際は、全職員が意見を出し合って作成している。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーに会議の意義や役割を説明しており、地域の中にホームの理解や連携が徐々に深まっている。また、会議は2ヶ月毎に開催し、ホームの活動内容のほか、自己評価や外部評価結果を報告しており、活発な意見交換が行われている。出された意見や要望は、日々のケアや活動等に反映させるよう心掛けている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広報紙やパンフレット等を配布している。また、市町村担当職員が運営推進会議のメンバーとなっており、自己評価や外部評価結果を報告しているほか、必要に応じて助言等を得るなどの連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、更に内部研修を行うことで、制度に関して理解を深める取り組みを行っており、必要に応じて利用者家族等への情報提供を行うなど、希望家族に対応できるよう体制を整えている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、内部研修や外部研修を通して、虐待防止法に関する理解を深めており、ケアの中での言葉づかいや態度を互いに注意し、虐待を未然に防ぐよう努めている。また、虐待等を発見した場合は、報告・相談・確認を行う取り決めがあり、全職員が理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、ホームの理念や方針について、重要事項説明書を基に十分に説明を行い、家族の意見や疑問点を引き出すよう心掛けている。また、契約改訂時や退居時にも十分に説明を行い、同意を得ているほか、退居の際は転居先の情報提供を行うなどの支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行するホーム新聞に暮らしぶり等を掲載し報告している。また、受診状態等については、必要に応じて電話等で報告しているほか、金銭管理については出納帳へ記載し、領収書を添え面会時に報告し、確認を得ている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にも苦情に関する事項を明示していると共に、ホーム内にも掲示しているほか、意見箱を備え付け、意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見等は、管理者や職員で話し合い、改善を行うように心掛け、運営推進会議へも報告しケアに反映させている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は異動等による利用者への影響を理解しており、職員の退職や新職員を配置する場合は利用者や家族に十分に説明を行っている。また、詳細に引継ぎを行い、利用者への負担を最小限にするよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の業務に関する相談や助言は管理者が行っている。また、管理者は職員を経験年数や力量に応じて外部研修会へ参加させており、研修参加後は復命及び内部研修において伝達を行い、情報の共有を行っている。しかし、職員が平均的・段階的に研修を受けられるよう年間研修計画を作成するまでには至っていない。	○	職員が平均的・段階的に研修を受けられるよう年間研修計画を作成することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協会に加入し、総会や懇談会、勉強会を通じて交流を図っている。また、他グループホームの見学等を行うなど、職員の育成に繋げる取り組みを行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学・相談の段階から、安心してサービスが開始できるよう、利用者や家族の思いを尊重している。また、利用者の生活暦や希望、好みなどの情報収集を行い、生活が急に変わらないよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者のペースや喜怒哀楽を受け止め、野菜作りや食事の準備、後片付けなど、利用者の興味や特技を活かし共同しながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日々の関わりの中での声掛けを大切にし、利用者の思いや希望、意向の把握に努めている。また、職員間で話し合い、日々の関わりの中での状況の把握に努めているほか、必要に応じて家族等からも情報収集を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、利用者の思いを汲み取り、家族からの意向を収集してアセスメントを行っている。また、ケア会議において全職員の気づきや意見も取り入れるほか、必要に応じて家族等の意向も反映させた利用者本位の個別具体的なものとなっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月毎に見直しを行っており、利用者の身体状況等に変化にあった際は随時見直しを行っている。また、職員は常に利用者や家族の希望・意見に変化がないか観察や把握する取り組みを行うことで、見直しの際の再アセスメントに役立っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	常勤の看護師がおり、健康管理に配慮しているほか、通院時の送迎や外出支援など柔軟な対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医での受診を支援している。また、看護師が常勤しており、いつでも相談できる体制が整っているほか、体調に変化がある場合は、協力医等の指示により対応している。利用者の受診状況等は随時家族へ連絡し、情報の共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期の対応について、事業所としての対応を明確にしており、早い段階から家族や医師を交えた話し合いを行っており、意思統一を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者へは、常に穏やかにゆったりとした接し方を心掛けているほか、常識的で適切な呼びかけを行っている。また、職員は個人情報保護法を理解し、個人情報の記録等はインシヤルで行うなどの配慮を行っているほか、個人ファイル等は利用者や来訪者の目に付かないよう事務室に保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者のペースや状態に合わせ柔軟な支援を心掛けている。また、常に利用者を優先しながら業務を行っており、散歩や園芸など、一人ひとりに寄り添えるように努めている。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立等は利用者の好みに配慮している。また、利用者の状態や気分に応じて、食事の準備や後片付け等と一緒にしている。職員は食べこぼし等へのサポートをさりげなく行いながら、同じテーブルで食事をしており、楽しい雰囲気を作り上げている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴習慣等を把握しており、可能な限り利用者の希望を取り入れて、週2回の入浴を行っている。また、入浴に対する羞恥心や負担感、安全面に十分配慮している。入浴を拒否する場合は、無理強いせず、清拭や足浴で対応するなどの工夫を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や希望に合わせ、畑仕事や草取り、清掃、食事の準備などの役割や、体操や買物、ドライブなどの楽しみごとを促す働きかけを行っている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺を散歩したり、買物や外食、ドライブに出掛けるなど、日常的に外出の機会を設けており、利用者の身体状況や希望に合わせた外出支援計画を立て実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は、内部研修及び外部研修に参加し、身体拘束を行わないケアを実践している。しかし、やむを得ず拘束を行う場合の理由や方法、期間、経過観察等について記録を残したり、家族から同意を得る体制を整えるまでには至っていない。	○	やむを得ず拘束を行う場合に備え、理由や方法、期間、経過観察等について記録を残す体制を整備し、家族から同意を得る体制を整えることに期待したい。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関には施錠はせず、玄関に外出傾向を察知するチャイムを備え付けており、職員は外出傾向を察知できるよう、見守りや付き添い等の支援を行っている。また、利用者の無断外出時に備えて、近隣住民から協力が得られるよう働きかけを行っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時における非難誘導訓練を日中・夜間時を想定し行っているほか、非常災害マニュアルも作成している。また、災害時には、近隣在住の職員や関連企業の職員、警察や消防、住民からも協力が得られる体制が整っている。非常災害時の食糧や水、防寒用具を確保している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	保健所の栄養士と連携し、摂取カロリーや栄養バランスについて助言を受けて献立を作成している。利用者の摂取カロリーや水分量を概ね把握しており、必要に応じて記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルに基づき、内部研修等を行い、予防に対しての意思と手順を確認している。また、関係機関から情報収集を行い、必要に応じてマニュアルの見直しを行っているほか、得られた情報を利用者や家族に周知し、予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や季節の花、観賞用の魚を飼育しており、食卓やソファなど家庭的な雰囲気となっている。また、大きな窓からは自然光が入り、職員の立てる音やテレビの音量は適切であるほか、季節の草花を飾るなど、四季を感じることができるよう配慮している。		
34	78	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた整理ダンスや装飾品など、馴染の物を持ち込んでおり、利用者の手作り作品や家族の写真が飾られ、一人ひとりが居心地良く過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。